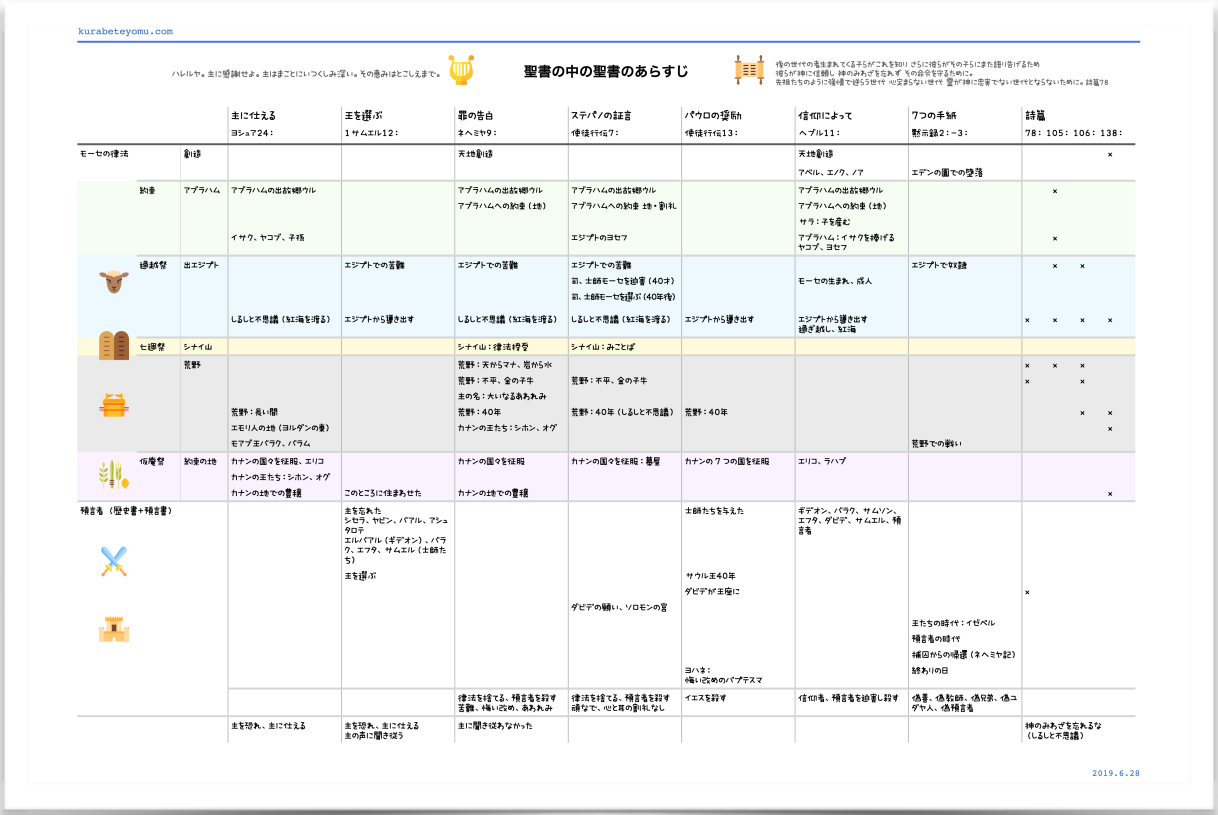
ハレルヤ。主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

聖書の中の聖書のあらすじ

後の世代の者生まれてくる子らがこれを知り さらに彼らがその子らにまた語り告げるため
彼らが神に信頼し 神のみわざを忘れず その命令を守るために。
先祖たちのように強情で逆らう世代 心定まらない世代 霊が神に忠実でない世代とならないために。詩篇78

			主に仕える ヨシュア24：	王を選ぶ 1サムエル12：	罪の告白 ネヘミヤ9：	ステパノの証言 使徒行伝7：	パウロの奨励 使徒行伝13：	信仰によって ヘブル11：	7つの手紙 黙示録2：-3：	詩篇 78：	105：	106：	138：
モーセの律法		創造			天地創造			天地創造 アベル、エノク、ノア	エデンの園での堕落				×
	約束	アブラハム	アブラハムの出故郷ウル		アブラハムの出故郷ウル アブラハムへの約束（土地）	アブラハムの出故郷ウル アブラハムへの約束 土地・割礼		アブラハムの出故郷ウル アブラハムへの約束（土地） サラ：子を産む			×		
			イサク、ヤコブ、子孫			エジプトのヨセフ		アブラハム：イサクを捧げる ヤコブ、ヨセフ			×		
	過越祭	出エジプト		エジプトでの苦難	エジプトでの苦難	エジプトでの苦難 司、士師モーセを迫害（40才） 司、士師モーセを選ぶ（40年後）		モーセの生まれ、成人	エジプトで奴隷		×	×	
			しるしと不思議（紅海を渡る）	エジプトから導き出す	しるしと不思議（紅海を渡る）	しるしと不思議（紅海を渡る）	エジプトから導き出す	エジプトから導き出す 過ぎ越し、紅海		×	×	×	×
	七週祭	シナイ山			シナイ山：律法授受	シナイ山：みことば							
		荒野			荒野：天からマナ、岩から水 荒野：不平、金の子牛 主の名：大いなるあわれみ	荒野：不平、金の子牛				×	×	×	
										×		×	
			荒野：長い間 エモリ人の地（ヨルダンの東）		荒野：40年 カナンの王たち：シホン、オグ	荒野：40年（しるしと不思議）	荒野：40年					×	×
			モアブ王バラク、バラム						荒野での戦い				×
	仮庵祭	約束の地	カナンの国々を征服、エリコ カナンの王たち：シホン、オグ カナンの地での豊穣	このところに住まわせた	カナンの国々を征服 カナンの地での豊穣	カナンの国々を征服：慕屋	カナンの７つの国を征服	エリコ、ラハブ					×
預言者（歴史書+預言書）				主を忘れた シセラ、ヤビン、バアル、アシュタロテ エルバアル（ギデオン）、バラク、エフタ、サムエル（士師たち） 王を選ぶ		ダビデの願い、ソロモンの宮	士師たちを与えた サウル王40年 ダビデが王座に ヨハネ： 悔い改めのバプテスマ	ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、預言者	王たちの時代：イゼベル 預言者の時代 捕囚からの帰還（ネヘミヤ記） 終わりの日	×			
					律法を捨てる、預言者を殺す 苦難、悔い改め、あわれみ	律法を捨てる、預言者を殺す 頑なで、心と耳の割礼なし	イエスを殺す	信仰者、預言者を迫害し殺す	偽善、偽教師、偽兄弟、偽ユダヤ人、偽預言者				
			主を恐れ、主に仕える	主を恐れ、主に仕える 主の声に聞き従う	主に聞き従わなかった					神のみわざを忘れるな （しるしと不思議）			

聖書中の聖書のあらすじ



kurabeteyomu.com

ハレルヤ。主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

聖書の中の聖書のあらすじ

後の世代の者は生まれてくる子らがこれを知り、さらに後ら子らがこれを語り告げるため
彼らが神に信頼し、神のみわざを忘れず、その命令を守るために。
先祖たちのように頑迷で逆らう世代、心定まらない世代、霊が神に忠実でない世代とならないために。詩篇78

		主に仕える ヨシュア24：	王を選ぶ 1サムエル12：	罪の告白 ネヘミヤ9：	ステパノの証言 使徒行伝7：	パウロの奨励 使徒行伝13：	信仰によって ヘブル11：	7つの手紙 黙示録2：-3：	詩篇 78：105：106：138：
モーセの律法	創世			天地創世			天地創世 アベル、エノク、ノア	エデンの園での堕落	×
約束	アブラハム	アブラハムの出故郷ウル イサク、ヤコブ、子孫		アブラハムの出故郷ウル アブラハムへの約束（地）	アブラハムの出故郷ウル アブラハムへの約束 地・割礼 エジプトのヨセフ		アブラハムの出故郷ウル アブラハムへの約束（地） サラ：子を産む アブラハム：イサクを捧げる ヤコブ、ヨセフ		× ×
過越祭	出エジプト	しるしと不思議（紅海を渡る）	エジプトでの苦難 エジプトから導き出す	エジプトでの苦難 しるしと不思議（紅海を渡る）	エジプトでの苦難 前、土師モーセを紹介（40才） 前、土師モーセを選ぶ（40年後） しるしと不思議（紅海を渡る）	エジプトから導き出す	モーセの生まれ、成人 エジプトから導き出す 導き越し、紅海	エジプトで奴隷	×　× × × × ×
七週祭	シナイ山			シナイ山：律法授受	シナイ山：みことば				
	荒野	荒野：長い間 エモリ人の地（ヨルダンの東） モアブ王バラク、バラム		荒野：天からマナ、岩から水 荒野：不平、金の子牛 主の名：大いなるあわれみ 荒野：40年 カナンの王たち：シホン、オグ	荒野：不平、金の子牛 荒野：40年（しるしと不思議）	荒野：40年		荒野での弱い	× × × × × × × ×
仮庵祭	約束の地	カナンの国々を征服、エリコ カナンの王たち：シホン、オグ カナンの地での豊穣	このところに住まわせた	カナンの国々を征服 カナンの地での豊穣	カナンの国々を征服：墓屋	カナンの７つの国を征服	エリコ、ラハブ		×
預言者（歴史書＋預言書）			主を知れた シセラ、ヤビン、バアル、アシュタロテ エルバアル（ギデオン）、バラク、エフタ、サムエル（土師たち） 王を選ぶ		ダビデの願い、ソロモンの宮	土師たちを与えた サウル王40年 ダビデが王座に ヨハネ： 悔い改めのバプテスマ	ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、預言者	王たちの時代：イゼベル 預言者の時代 捕囚からの帰還（ネヘミヤ記） 終わりの日	×
				律法を捨てる、預言者を殺す 苦難、悔い改め、あわれみ	律法を捨てる、預言者を殺す 頑なで、心と耳の割礼なし	イエスを殺す	信仰者、預言者を紹介し殺す	偽善、偽教師、偽伝説、偽ユダヤ人、偽預言者	
		主を恐れ、主に仕える	主を恐れ、主に仕える 主の声に聞き従う	主に聞き従わなかった					神のみわざを忘れるな （しるしと不思議）

2019.6.28

聖書の中の聖書のあらすじをまとめました。

聖書の中に、歴史を要約するような箇所が何箇所かあります。

ヨシュアが約束の地を与えられて「私と私の家は主に仕える」と言って民と契約を結ぶような箇所のヨシュア24章。王を選ぶ時に、サムエルが話す第1サムエル12章。エルサレムがバビロンから回復されて城壁が建てられるネヘミヤ9章の罪の告白。ステパノが使徒行伝7章で証言する証言。使徒行伝13章でピシデアのアンテオケでパウロが奨励の言葉を話すとところ。ヘブル人への手紙の「信仰によって、信仰によって」という信仰の先祖たちの歴史。それと詩篇の中に長い歴史を記録する詩篇があります。78篇、105篇、106篇、138篇、105篇と106篇は歴代誌の中にも引用されている反対なんだと思いますけれど、105篇と106篇がここにあります。それぞれの分析については別のレポートを見ていただきたいと思います。

全体としては創造。創造があってアブラハムの契約。そしてヨセフまで。そしてエジプトから連れ出される。シナイ山で律法を受ける。これは律法を受けるところは無いものも多くありますけれど、次に荒野、荒野での逆らったこと「荒野の40年、40年、40年」という言い方で荒野の箇所があります。そして約束の地に入って、敵の国々、カナンの国々を征服して、カナンの地で豊かに実る、実るという箇所。それぞれ歴史書、預言書のところですね。預言者、モーセの律法と預言者。その預言者の書物の中から、いくつかが引用されています。

最後に、この歴史を覚えて主を恐れ、主に仕え主を恐れ、主に聞き従う、聞き従わなかったということを律法を捨てる、預言者を殺す。律法を捨てる、預言者を殺す。イエスを殺す。預言者を迫害するというような形で、ここに、この教えを捨てるものは預言者を殺すというような共通の終わりの方にある言葉があります。

黙示録の7つの手紙もエペソ、スミルナ、ペルガモというこの7つの手紙も各時代を思い出させる言い方になっています。エデンの園での堕落、エジプトで奴隷になったこと、荒野での戦いなど。その7つの手紙が書かれている黙示録の最後のところに、偽善、偽教師、偽兄弟、偽ユダヤ人、偽預言者というのが、この7つの手紙の中で取り扱われている敵のことです。

全体としては、詩篇が書いているように、この四つの詩篇に共通してるのが、主のみわざを忘れるな、主の奇しいわざを忘れることがないように、「しるしと不思議」というふうにまとめられますね。このしるしと不思議によって連れ出して、約束の地に導いてくださった神様のみわざを忘れるなということが、78篇の出だしにあるように、その事を言うための詩篇です。「彼らが神に信頼し、その神のみわざを忘れず、その命令を守るため、先祖たちのように強情で逆らう世代、心の定まらない世代。霊が神に忠実でない世代とならないために」このみわざを忘れることがないように。

そのみわざは一言で言うと「その恵みはとこしえまで」。138篇でずっと繰り返されているように、その恵みの歴史を忘れることがないようにと言うのがこの詩篇で言われてるところですし、ずっと預言者が訴えているところです。主のみわざを忘れてはいけないということを、裁かれます。もしくは、憐れまれます。そのみわざを忘れることがないようにと言っているのが、この歴史で要約しているところの意味ということになるかと思います。

「預言者を殺す」というところがこの最後にあって興味深いですよね。特にネヘミヤ9章のところ、それとステパノの最後のところ。これはステパノはネヘミヤが分かっていて引用しているように思われます。

北イスラエルのサマリアが陥落する時、第2列王記の17章にありますけれど、そこもこの預言者を迫害した。神様の教えを捨てて預言者を迫害する。南のユダ、エルサレムが陥落する時も同じように、「強情でかたくなになって主の教えを捨てて、預言者を迫害する」ということが言われています。

ステパノの時は、エルサレムが古いイスラエルの都であるエルサレムが裁かれるということを預言しているステパノは殺されるということなんですが、そのような終わりの警告の言葉ですね。警告の言葉と聖書のあらすじというものが、アブラハムに約束した通りに救い出してくださって、相続を与えてくださった。「その約束を捨てるならば、相続人ではなくなって相続も失います」ということを言うためにこのあらすじのまとめの歴史を振り返る。みわざを振り返る聖書の中の聖書のあらすじという箇所があるのだと思います。